

《会員の動き・しゃべの動き》特集

◆ 1月18日(月)、木曾の折沢国雄氏、予定通り、成田よりフィリピン・パラワン島へ向った。2週間程度フィリピン国内をウロウロするつもりと聞いているが、これを機会に再び氏の放浪生活が始まりなければよいが……。

◆ 九州の白水隆博氏より数枚のハガキが編集者宅へ寄せられている。野中氏の石川原産ゼン倉樹の記録、松井氏の雨飾アサマの倉樹、鼻産せり、チョウのまとめなど称賛の言葉をいただいたが、一方、編集者のミドリジミの性癖については、おしかりを受けた。

また、雑誌上に発表されている報文は、著者の目からは理解し難く、地名等ははっきり(例えば、単に高倉山とせず、石川郡吉野村高倉山と記名する)記入すべきで、簡単な地図を記入するののも一つの方法で、編集者はそれくらい考慮するべきであると御指導を受けた。

今後、投稿の際は、以上の点を留意してお願いしたい。

◆ うわさによると、1月中旬頃、天下の伊藤忠商事のK.M氏は、北陸にミレンを残して大阪へ転勤していった由。

以外にも、この情報は、フィリピンへ飛んだ折沢氏にもたれられた。今夏は、予測どおり、北陸絶滅道路を北道して石川

富山を縦横めしていくことであろう。

◆ 2月2日(火)、再び折沢氏の記録。予定通り日本へ一時帰国した。川口在住の美姉宅にて一泊して、再び成田よりインドネシア・タイへ向けて飛び立った模様。

2〜3日後、編集者宅へ多数のフィリピン・パラワン産の蝶の標本を送ってきた。日本を出発する前の約束で、「展覧してくれるなら1/3送呈する」という約束文句につられて引き受けたが、このボー大な標本の数では思うように展覧できず弱っている。

◆ このところ、東京 Hotel New Japan のビル火災、羽田沖の日航 DC-8 の墜落、フィリピン 0000 島でチャーター機の墜落といふ事件が相ついでいる。

インドネシアやタイをウロっている、折沢氏のことが頭に残りかたして、彼氏はどうしているのかなー。

◆ 2月XX日、吉村久貴氏、このところオサタが無く、会員内外で募出したのではないかと心配の事が聞かれたが、大学院合格の知らせを持って、久方振りに編集者宅へ顔を見せ、山田のカーナHTがカムリに愛身していた。今年はお利酷便できない様子。MARK II-HT は棲住なり。

◆ 2月XX日、予想に反して今年は無雪、

松井氏より情報によると、野中氏のところのウラゴマダラが冷蔵庫内にて孵化しているという。これを聞かされて、あわてた編集人 急いで越冬卵を調べたら、芽の上30個ぐらいのウラゴマダラシミがきれいに穴があいておった。そういえば、庭を見るとイボタが芽をふいているし、桜もつぼみがふくらんでいるし、ボヤボヤしておれんね。

◆野中氏、6月より大阪大学へ研究のための長期出張が決った。そのために現在の仕事の後始末が大変らしく多忙を極めている様子。大阪へ出向した折は、研究のかたわら、関西方面の調査にまじ込まれることを期待しよう。

◆少々古いハナシだが、文芸春秋刊の渡辺淳一の『峰の記憶』(53.9月刊)という小説を女房が読んでいたのを何げなく覗いたり、ササヒヨウモンとかウスバキチョウとかダイセリタカネヒカゲが登場してくるではないか。これはヒョウとしたりおもしろいのはと、しばしば読み(お得意の苦当)をして全体の内容を把握したつもりだが、オオムネ、大雪縦貫道(今の道路、笑っていない)の建設をめぐり自然破壊につながる観光ルートの是か否かという話におひねがついたものであった。(全てフィクション、こゝな言説がある訳ない)

それでも、ナギサギ、ヒグマ、エゾカ、シリスやホンバウリンソウ・ジョウキスミレ・エゾオヤマノボトツギといった10種類以上の北海道固有の動植物が登場してくる。まあ、暇のある人は、

編集人のおよとしばしば読みでもしてくれ。参考に関連の地図を載せておく。こんな道が笑っていたら 国中のムシは大喜びだろう。……ウハハハ。

◆2月27日(土)、野中氏より編集人のところへ、雪が少いから『オササケリしなにか』の誘いがあった。貧乏編集人は、日曜出勤で、残念無念。

◆3月15日(月)、木曾の井沢国雄氏、休遊中であつたが、案弾が不足してきたので予定より早くタイオリ帰国した。女を買って(奥さんがこれを読むと目をむくかな)金をなくしたが、標本の買い過ぎで金を無くしたのかは知らんが、



ともかく無事に帰国した由。何でもお向うは、
相もかわらず日本人ムシヤが多数徘徊し
自石DD、大谷XX……TSU-I-SOによく出
てくる名前の中に放浪していたと聞く。
多数

◆ 3月17日(水)、インドネシアやタイの興奮さめ
やらめ、いきおいで井沢氏 ひょこり金沢へ
来た。おみやげに両国の標本をどさり
持ちして、全部採集人にくれるらしく、『井沢
様は神様です』と拝んでいたら、2-3年の
間に全部展覧してくれ、という意味であっ
た。そーだろーな。

◆ 3月20日~25日、新編集人、発熱で倒
れる。!! 何と「風疹」と診断されてはった。
大人になってからの風疹は少々危険だと言わ
れて、ちかショック。娘が学校で感染してき
たのをありがたくもらもらしい。

◆ 3月24日(水)、百方右出蝶談会例会を開
催した。

◆ 同日、県教職員の人事異動で、松田俊
郎先生は、沓陽小学校へ転勤された。

◆ 3月27日(土)、松井士掛人のリードの元
フリンク会員を中心に、初めてのゼブルス採
卵会を開催した。場所は、松井 POINT
と呼ばれる、犀川上流のアイミドリ60卵
を出したところ。

若下泰子・吉岡泉の若手を主体に松井
野中・金三・嵯峨井が参加した。

アイ・ジョザン・ダイセン・ミズイロ・オオ
ミドリなどあわせて3~40卵、ずずずの
成果。特にコナラ屋の野中氏は、コナラ
のみに集中的に目をつけ、ジョザン・アイノ
・ミズイロ、オオと次々と出したのには、若手
グループも目を見張るばかりであった。

◆ 3月18日(木)、暖冬で雪が無く、もうギフ4卵
が発生しているという情報があった。
ギフ4卵初見日の記録更新ではないか。
記録は保持している人は、早急に発表して下
さい。

◆ 3月28日(日)、松井・松田の御松両人は
北陸高速道を南下し、滋賀-岐阜県境の
聖仙山へオキシマミドリ採卵に出かけた。
聖仙でのオキシマ採卵に疑問を持った地
元代表・諸道秀人氏と相模駅にて再会
し、3人でアタック。有名地でしかも時期的に
僅いと思われ期待薄であったにもかかわらず、
それでも1人、7-80卵程度は得られた由。

◆ 4月1日(木) アヒグラフ 4月6日号に、東南
アジアの蝶の新属、新種、新亜種が、カラー
で紹介された。

◆ 4月4日(日)、松井・松田・嵯峨井は各々
別行動にてギフ4卵を求めて歩きまわる。
なかでも松井氏はヒトリシズカに森本方面の
ギフを思うままにし、ホクソエンでいた。

◆ 4月5日(月)、嵯峨井は昨日に続いて再び
渥~平栗へ。おびたたい数のギフ、ギフ、
又、ギフ。板面ライダー・スーパースタイルの金
氏や、県外からの数人の採集人に出逢う。
渥地内にてカメラを手にした川崎英典氏に
会い、本会への入会をお願いした。

◆ 4月7日(水) 夕方、4ツキチホマレは、飼
育中のゼフのイサを採卵に平栗へ。家へ持ち
帰ったイサをよく飼育してみた。ナオ・ナト、
アイノ・ダイセン、アカがついていたのだ。今年は
ゼフの飼育についているわいとホクソエンでいる。

◆ 4月11日(日)、大快晴の太陽の下、金沢市
平栗カワイは、東京からの3人、長野県1人、他に

2~3人の鼻外勢の姿あり。カマを手にした竹筒氏の姿も見られた。

◆ 同日、若下泰子嬢、ギブを求めて単独にて鶴岡方面へ。雪の影響によるものなのか新鮮な個体もあるかと思えば、ボロボロの成虫もいたりして、時期が早いのか、遅いのか判断に苦しんだ由。

◆ 4月12日(月)、歯が痛いと言っていた、若下ヒロコ嬢とそのお母さんは、3月にゼンマイ卵会に訪れたことのある菅池へ下谷にかけギブ4羽を思いつく分ネットする。

先に来ていた、4羽キチホマレは、ネットを振る姿のヒロコ嬢を初めて見たが、比較的素早く、個体おのれは目が良いこと。スリムな身体で4羽キチホマレは、相当タラシと見た。編集人は、今後彼女のことを細く振舞うと呼ぶ。しかしこれは松本和馬氏に許可を得ていない……。

◆ 4月14日(水) PM6:00 NHKこちら情報部 6:00 なるテレビ番組にて、「新種124! アジアの蝶大発見」と題してTV放映された。

子供番組ちゃんとお見えていないはずの4羽キチホマレがたまたま見えて、アレー。

20余箱のドイツ箱に並べられた標本を前に堀田悦造氏がインタビューに答えていた。詳しい内容は、先に紹介済のアサヒグラフを見るとよい。

◆ 4月17日(土) 松井仕事人は、桑島の手取川ダムの上へ、ギブ・カンアオイの調査。もう4月中旬が過ぎたというのにアレや咽が降った由。

◆ 同日夜、金子・野中の医学部ホカランビは、戦後を語るために、川松市の富沢章氏宅へ。どんな話員がとびかたか編集人は聞いているので知らない。

は聞いているので知らない。

◆ 4月18日(日)、前日に続き、松井仕事人は、石川郡の山間部へカンアオイの調査行。木曾付近にて、ミヤマカラスジミと思われる卵がブチブチついているクロウメドキを発見。卵を持ち帰ったが残念ながらいずれ孵化しなかった。

◆ 同日、若村氏を仲介して、近藤征四郎氏お入会申し込みがあった。

◆ 4月XX日、木曾の井沢氏 大阪セッロー社へ買い出し(?)に。あいにくセッロー氏はタイカインドネシアを放浪していて、不在だったとか。

なんでも近江昆虫同好会の発表式にも参加した由。発表式に諸道氏もいたがどうか不明だったが、井沢氏の話によればムシの生態写真専門の人が5人もいたとか?

◆ また、木曾人の話題。4月8日~9日にかけて、奈良ドリームランドへ家族旅行した際、ある喫茶店の見学も兼ねたとか。若村氏は、喫茶店を開くことを胸に秘めているらしく、後学のためにその店の虫集の展示を見学したもののらしい。

◆ 4月25日(日)、若村氏、長野県小谷村黒川へ。もちろんヒメギブ、ますますの成果だったという。

◆ 4月XX日、MEN'S BEAUTY SHOP HASHIBAの若主人は、長い物に金巻に出てくるムシは目がないことで有名であるが、この度、店内に虫集(外国産×がネズミハ等)を陳列し、来客の心をなごむ工夫をこらしている。

一度見なければおさまらない人は、ただでは無理で、¥2500を拝参していくべし。これは、無料広告である。

◆ 5月1日(土)、翔編集人宅へ岩下泰子ク
来宅。バンタ・コクター・BAGATの標本をな
がめて、ため息にブため息。「今年は、や
るわ、皆さん見てらっしゃい、私はすごいんだ
から」と、百斤石・ナイト・ギョレは、胸志を
みなぎらせていた。

◆ 5月2日(日)、野中氏よりの情報。金子
先生、医王山にてオオエフリスズメを採集さ
れたという。

話は変わるが、昨秋採られたシロ・ベニ
・ムササギなどのカカラ印の飼育は御両
名とも順調でろくに違っているとが。

◆ 5月4日(月)、NHK-TV朝のローカル番組
で、福井の下野浩一氏、新種10万匹の
蝶を語ったという。残念ながら編集人は
見逃したので詳細は知らない。

◆ 5月5日(火)、細振重子ヒロコフン福岡
にてウスバシロをとる。(編集人の)

◆ 5月6日、竹谷氏を経由して、宇治町の、
高平正明氏と法皇町の中西聖雄・朱美夫
妻の入会希望の話が編集人のところへ連
絡があった。大歓迎。

◆ 5月8日(土)、木井村掛人、排へ竹前
にかけてカンアオイ(多分ヒメカンアオイ、多い)と
オオヒカゲの調査をした。
同日、岩下氏湯涌・市瀬方面へウスバ
シロを調査。

◆ 5月9日(日)、松井・岩下向陽庵のBエビ
は、フジドリ・ミヤマカラスジミ等の幼虫を
求めて白山親道入。しかしあえく0匹。
しかしながう久し振りに母枝が紅葉し
なり、顔に花が咲いた。か、どうかは、
編者は知らない。

◆ ちょっともどって、5月2日、諸道氏、大津
市龍門へオオヒカゲの調査。和泉での調
査経験を活かし、W.W.W.F.会員に
伝授した模様。プロスではない
余談であるが、諸道氏の好みのタイプは
……倉田まり子。らしい。

◆ チョウキチホマレは、耳鳴の同僚と河内村
奥池へ山採取りに行く。残雪のなか、
ゼンマイ・ヤマトなどを背に休憩してい
たら、スギタニリがろへ4頭チラチラヒ。
牙の軍手に吸汁するものがいたりして……
こんな時、いつもネオを捕まえていないので、
後悔ナシか。他には、ヒメハシ、サカハ
チ2頭を目撃した。

◆ 5月13日(木)、木曾の井沢氏ひよこい金沢
へ。編集人宅よりインドネシア・タイ・パラワン
の展覧標本を持ち帰るため。
井沢氏よりの情報。
志賀むしの会が3月に再発足したという話
を聞いていたが、(当初近江昆虫同好会)
会誌「Came虫」N21が発行された。
会の略号がW.W.W.F. (World-Wide
Weakling Fun Club 世界中の弱い虫を愛
好する会)だそうで、何かプロスの略称にあ
ったような感じがして……会員名簿の中にき
とあるだろうとさがしてみたら、案の上あった
あかモロム氏の名があった。
会誌名のカメムシは、「カメラと虫」の合成
したええ名称だとさ。

◆ 5月15日(土)、松井氏、医王山へ。これは珍
らしい記録。氏はめったに医王山へ足を向け
ないことでも有名であるが(それは誰かのマ
バリを荒したくないという純粋な心根)、
今は、ゼフの飼育がほとんどポカッたので、
やむなく採幼のために医王山へ入ったものと、
見た。さすがは松井氏で、アイノ、ダイセン。

ツリザン etc と並の種をひとかり採幼てきた。

◆ 同日、チウチホマレは、若下森ダグンと共に、荒れた森本園地を徘徊し、ミドリジミとオオヒカゲの採幼を行った。多数の幼虫を捕り帰ったヒロコくんは、毎日フンのソージに余念が有いが、可愛いミドリジミはいいとして大きく長いグロのオオヒカゲ幼虫には、母上が目をぬいたそう。 (編集人はオオヒカゲ幼虫もきれいだと思うが...)

◆ 5月16日(日)、松井・若下・吉村・嵯峨井の4人組 (何だか中国の事件屋みたいだが) は、昨年のウスバシロ情報を元に能登へ走った。門前岬へ車輪島前にかけて数箇所採集を試み、普通種はもちろん本命のパールヘリ猿山灯台付近と門前・車輪島の境界地で確認した。猿山産ウスバシロを最初にネットしたのは、ナト百斤石・アイト・ギルヒロコであった。

他に、オオヒカゲの新産地も1ヶ所出た。詳細は別途掲載予定。

猿山付近には、コクサギ・ミスナフ・コナフ・カンイノキ・ナンテンハギ等、蝶の食草・食樹となる植物が多いのには一同びっくりしたが、常緑がシモ目につき、ヒョソとしたらと思われる種の調査の必要性が急務となってきたようだ。

◆ 5月18日(火)、ヒロコくん板尾谷へ。ミヤマカラス888採集。

◆ 5月19日(水)、編集人も板尾谷へ。ミヤマカラス1088、etc。ミヤマカラスアゲハの展覧会標本は後日、全て木曾の井沢氏へ譲呈していった。

◆ 5月22日(土)、午後、吉村・嵯峨井の2人組は白山スーパー林道、野中POINTへ。アサ

マシミらツツ採幼。嵯峨井は、2〜3冷域めて採幼したにもかかわらず高寄生率で5〜60%はダメ。吉村氏は終令も多く採幼していたようだが、果してどうだったか?

蛸島大橋上部にて白いワグンの金丸先生の姿あり。中宮自然保護センター付近の川原・リストハウス上部にて若々数頭のアサマシミが採幼できたと聞いている。

◆ 5月16日(日)、松島へ。松島在の吉岡泉氏、松島県西部にて白いウスバシロ2枚採集。内数10頭が吉村氏の元へ送付されてきた。

◆ 5月23日(日)、松井・吉村・若下の3人は、富山県立山川へアサマシミ調査に。後発した松田先生も立山川・自教川・ブナグラ谷へ入った。ブナグラ谷の奥では新たなイヌオビを発見し、多数のアサマシミ幼虫を見つけたようだ。

◆ 5月24日(月)、竹谷カメラマン出張で門前へ車輪島方面へ。仕事の忙しさから、ウスバシロを調査したが、見つからなかった由。

◆ 5月25日(火)、若下森ダグン単独で早月川へ。何をどうしたかは編集者は知りえない。

◆ 5月26日(水)、小笠野・崎浦公民館にて百万石蝶談会例会を開催。PM7:00〜9:00。小幡・高平・近藤・中西夫妻の新会員紹介。他、13名の出席で、最近におい大盛会であった。

◆ 5月27日(木)、若下嬢再び単独で早月川へ。『高山蝶を採っちゃいけないよ』と注意した男性4人組がいるらしいが誰だか不明。

◆ 5月30日(日)、金子・吉村の御両人は、早月を予定していたが、都合でヒレヤめ。吉村

氏は、立山称名へ。道路は舗装され駐車場が整備され、ますます観光地化されていて、誰かが天然記念物だ、とかな!!と騒いでいる反面、奈良の春日山事件(?)に勝るともおこらない、アンバランスの富山県行政に大いに怒る!!

- ◆ 同日、野中・松井コンビは、富山県片貝川へアサマの調査直行。昨年嵯峨井が同道した、東又谷は見つからなかったため、今年は南又谷へ入り、見事、アサマシジミ幼虫を捕獲した。食草はナト・エビラフジであったとか。奥の方では、イワウギも食べていたらしい。いや、お前ど。——。詳細は次号掲載予定。

- ◆ 5月31日(月)、チョウキチホマレは、白山芒原のアサマシジミがあまりに寄生がひどいので再び白山スパー林道へ入る。2〜3km程進入して有材料金¥2000也。暑いアサマだ。今度は、寄生のないのを丁寧に選んでとった。

- ◆ 5月22日() 野中・金子医学部からコンビは、西ノ山スポーツセンター付近の樹液採集所にてアサマキンタバ(石川県産記録)を数頭しとめた。石川県産18種目の外からの記録となる。

- ◆ 6月4日(金)、カカラのニューの噂を聞いてチョウキチホマレは二番煎じのアサマキンタバを探りに立山BCへ。15分採。

- ◆ 6月5日(土)、松井・若下の両コンビは、立山称名へ。例のイワウギに挑戦したが、ロープ操作して岩場を登ったにもかかわらず、失敗。食糧もなかったに聞いた。

- ◆ 6月6日(日)、松井仕掛人は、単独で白山スパー林道へ。目標はキバネセセリ。直至10時(嵯峨

高さ6mのハリギリよりキバネセセリ幼虫を7頭採集した。採集法など詳細は別途掲載予定。他にミヤマカラスジミを木滑にてさがしたが発見にいたらなかった由。

- ◆ 同日、嵯峨井・若下は、富山県の大野豊自然保護指導員と共に、有峰〜湯川谷へ入った。湯川谷のアサマは時期すでに遅く、イワウギが丸坊子にもかかわらず幼虫の姿はお目に見られなかった。が、ヒロコクンの努力により根際の下ゴロの裏より数個のアサマの蛹を発見した。クモツキも乱舞し、いいところだ。アッハハ(この笑いの意味ワカンダロー!!) 他には、ツマシロウツシメの前蛹の発見、有峰峠付近のウスバシロの確認、折立〜湯川にかけてのスゴ谷付近でのギフタツツの稚虫を目撃した。

- ◆ 同日、大阪より伊藤忠清掃人、早川を清掃にいったという噂あり。他に関西方面より数人入浴したとも聞いているが、詳しくは知らない。

- ◆ 6月8日(火)、木曾の井沢氏より編集人宅へ電話が入る。会員切望の標本箱20箱注文す。この標本箱は、木曾福島市の森林組合にて作製しているシモノで、お値段は出来具合によって¥3000〜¥4000と幅がある由。

- ◆ 6月9日(水)、本会の有カメンバー野中勝氏。研究のため大阪大学へ1年間の予定で長期外出された。この大切な時期に氏を欠くことは、本会にとって誠に残念であるが、男は仕事が多い。(誰かの如きは、趣味のあい間に仕事をしている)、競走社会の宿命とでも云おうか。とまあこれを機会に関西方面を荒して伊藤忠氏にひとあわらかしてくるだろうと思う。ところが毎日宿舎へ帰るのはPM11:00〜12:00と11時とで、日曜は洗濯などして、ぐったりらしい。ガミさん(野中氏のログセ)の有

難さを身にしみて感じているトカ。

◆ 6月11日(金) 新編集人は単独で医王山方面を夜間採集。医王山と付近の樹液ポイントにてゴキブリ、傍断にてゴキブリの「アサギシタバ」を採集。しかし半数は破損がひどく標本にならず。目の悪いのはこんな時不都合。(ホトは頭も悪いのだが) 無益の殺生をしてしまった。

◆ 6月XX日 ゼフィルス発生の特異期。若下泰子・中西美奈の女性採集人や、高平・中西両氏の医王山周辺の採集行動がトラホウ目に入ってくる。アカシジミが圧倒的に多いらしい。

◆ 6月13日(日) 松井・吉村・独身貴族コンビは、新潟県の白根地沢へ行った。勿論アサギシタ。この地は、小型で青く、採集家垂涎の種。各々三桁を軽く採集してきた模様。ヒロコクンや編集人のところへもおにぼりが配られてきた。

◆ 同日、松田先生と編集人は、早月川へ。如川アサギシタを各々50採集した。先週多数の採集人にあられたにも関わらず、いくらでも幼虫が出現してくる……という感じ。ナグラ谷の松田Pointのアサギシタにも魅力を感じ、徒歩で入谷したが降雨と雷にみまわれ、途中後援の引かれる思いでひき返す。川又川のアサギシタにも挑戦したが、砂防堰堤工事によりつぶされたみたい。

◆ 6月19日(土) 竹谷和久さん、中名のリストハズ・白山自然保護センター付近をアサギシタ撮影のために訪れた。雄はすでに時期遅く、メスはきれいなものが多かった。数人の採集人のために荒されていてアサギシタの飛翔は其時でせうくないと、なかばあきらめていたカメラマンは内々ホッとしたり。

そして例の川原で、ヒメシジミ(♀)のゴキブリを

撮影してきた模様。アサギシタヒメシジミは、いったい中名のどこで発生しているのだろうか? いったい何を食っているのだろうか。誰か、この謎を早急に解明してくれ!!

◆ 同日、富山県昆虫同好会のクロコムラサキ調査団の一行は、今年も能登半島へ調査のため足を向け来由。調査の結果は詳しくは知らない。しかしまあ、富山からは、クロコムラサキのために、石川へ入り込み、石川からはアサギシタのために富山へ入り込み、お互いに御苦勞なことでは?

◆ XXX. 先にも少し記したが、金田二氏の医王山でのオオモリスズメに関する投稿記事が月刊むしり号に掲載されているので、特に戦に興味のある方は一読すべし。

N・N氏あたりが、本種について何か入をこいているらしいが、あまり物を書かない方には、入をこく資格はないと編集人は解釈している。

医学的には、おれ物をいらないと(いいたにと言わないと)胃腸に負担をきたし、しかも入が出にくくなるようであるので、N氏の行為はそれで良いのかも知れない。(医学的には、カッコイイ文章と使え、金田・野中・金平の医学部トリオオクレームがつけられそう、このあたりでやめにする)。

◆ 今後は昆虫と自然より。臨時増刊号については、新29号にて少し触れておいたが、富山の大野任樹人は、クロコムラサキに関する記述に非常に疑問を感じ、(古い本の一つのムラサキ(アサギシタ)の自筆記録に固執している) まして、ろくすっぽ調査もせずにクロコムラサキだと宣うなと武蔵明氏に御意見申しあげたりだと燃えておった。おもしろいヤレ、ヤレ。(ヤシキ根性だぜー。)

◆ 6月XX日、梅雨入り宣言したのに一向に雨が降らない。この時期に大変ありがたく、会員諸氏

は、ネットを持って走りまわっていることだろう。

編集人あたりは、卵の採りすぎというか、飼育のやり過ぎで、展翅板が腐杯の状態で、蝶を叩いても展翅がでさんのじゃー。展翅板が出来たら、木曾の仲栗さんに寄生されるだろうけれど。

◆ 6月15日(火) 若下泰子嬢、医王山へ。アイノミドリ、ジョウザンミドリなどネットす。中西朱美さんにも逢ったらしい。

◆ 6月16日(水)、おたおた若下嬢 医王山へ。フジミドリを空で採れた由。

◆ 6月17日(木)、若下・中西の女性採集人2人 おたおた 医王山を襲撃する。ウツクロ・アイノミドリ・ジョウザン・エゾ・アカ・フジ・アイノ・ウツギなどネットし、雄蝶集の災難の日なり。
今年の医王山は、フジミドリが豊産(?)のよう。過去の採集地と異り、ずっと手前の地点。今年の採卵はフジに集中しそう。

◆ 6月19日(土)、4オキヲホマレは、医王山のフジの噂を聞きつけ早速朝駆け。(笑は前日、徹夜し、夜中の3時に家を出た)
カカラなどいないが樹液を見廻り、1時間程度仮眠。朦朧としているところへ、ウツギの目をした ヒロコ・クワウン・スー・サルーンが駆けつけてきた。そしておまなく、『山梨県井さん フジが静止していますよ』の声。彼女は、フジミドリの天才になってしまったのだ。
ここは、編集人が昨年見つけたアイノミドリの乱舞 POINT だった。

◆ 同日、金子氏 愛知県の某所へ。目的はカカラ。ノコキエンタバがウスイロかハイトンかよくわからないが、何かが得られたかは、金子先生に報告してもらうつもり。

◆ 6月20日(日)、この日医王山はネットだらけ。竹田キョウマン・高平夫妻・中西夫妻とその子供達。そして編集人が朝からめいめいの目標種を求めて走りまわった。竹田氏は一度だけフジ撮影のチャンスがあった由。出来具合に期待したい。午後、松田先生も医王山へ。PM2:00~4:00にかけて菱山峠下方にてフジミドリの乱舞を目撃し、788を採集。

◆ 同日、松井氏のみ単独で白山へ。勿論、ウツギの調査。

◆ 6月23日(木)、編集人、仕事をサボって医王山 菱山峠へ。松田先生おりの情報を元に、フジミドリとの空中戦をやった。

◆ 6月25日(金)、野中氏、大阪お帰宅。三軒線界隈は、震度3~4の地震を感じたとか?

◆ 6月26日(土)、野中氏おりの誘いにより、金子・山梨県井のカカラ・グループは、森本・津幡・黒川・加藤とウツギ林を踏査し、フシキシタバを期待したが、予想をくつがえて、記録には至らなかった。しかし条件の良いウツギが相当あるので、希望はまだ捨てない。

◆ 6月29日(火)、松田氏、余暇を利用し、医王山へ。しつこくフジミドリ空中戦を展開し、7883卵採集。交尾中のフジミドリも、ジョウザンミドリも目撃したという。
なお、採集したフジミドリは、生かして持ち帰り採卵用に利用したところ。7月1日現在、卵を産卵したという。採卵用に持ち帰った、ガの枝にも1卵(既着生)ついていったというから、フジの産卵は意外にばいものかと推奨される。
詳細は、松田氏より投稿してもらう予定である。

◆ 木曾の井沢氏、ミヤマシを求めて、三城へ。285個採出。7月2日(金)のこと。

多数のオニバニシタバ、マキシタバ、エゾシタバ、コガタキシタバなどを採集。

◆ 7月3日(土)~4日(日)、松井仕事人は単独で白山中川へ。アハ、イサギなど、未調査部分の調査のため。既に誰か(東郷氏の子分か、福井人?)により掃除したあとであった由。深山のアハ成虫がブグと判び、昨年に比べ時期は早かったよう。それにも「ボグ」しか入れないと思っていたところへ先に進入していたのは誰かと侵略者に気をもんでおった。

◆ 7月13日(火)、編集人宅へ竹谷氏来宅。懐しのブトラアを頂戴す。氏より、我々ダム周りでウラゴダラジミ、ホシミスジ、ミスジチョウ種々の話を聞いた。詳細データは聞き取らしたので竹谷氏よりいずれ投稿してもらう。

◆ 7月3日(土)、編集人はフジドリ早を求めて医王山へ。しかし今のみで採卵用のメスは採れず。帰途ツマジロウツシメを採集す。

◆ 7月17日(土)、編集人は渥一・医王山・津幡・倶利伽羅にかけてカカラ樹液ポイントも総十Xにし、各地でオニバニシタバ、オニタバを確保した。でもホントはフキを求めていたのだ。

◆ 7月9日(金)、木曾の井沢氏再び三城へ。先週にこけす、ミヤマシに挑戦。

◆ 7月18日(日)、松井・若下・中西・高平の4人組は、岐阜県平島温泉、白骨温泉あたりへ。ゴキウモン・ゴキウモドキをはじめにしてコトオシヤオキイモンジ・タカオヤマダラセセリ等も大量に採集するハズだったが、詳しいことはナシヨ。

◆ 7月11日(日)、下界は猛暑。松井・高平・中西・若下の4人組、立山北平へ。目標は各種セウ、ミヤマモンキなどが？落石のため通行止めになっている道路を無理に進入したら、帰りは警署にお目玉をくらったと聞く。成果の方は、上々とは言えないが、クサリチドリ、ツマジロウツシメ、ヒメジミ、ミヤマモンキ等、そしてアハモンジも1頭採れたという風に聞く。
採集にて

◆ 7月21日(土)、松井・若下・白陽・コビ、白山中川温泉へホシミスジの調査。詳しいことは、2人に発表してもらおう。

◆ 7月12日(月)、編集人は医王山へ夜行出。

◆ 8月1日(日)、吉村久貴氏・長野県列の帰りに岐阜高山の栗山スキー場へより、ゴマシミを採集した由。

期 12 30 = 会員の動き・山歩の動き特集 = 1982年 9月15日(水) 発行

発行： 金沢市三口新町 4-9-33・松井正人方 百万石蝶談会

編集： 嵯峨井淳郎